

令和7年7月号

ゆう's ねっと

つくり すこしばつ行こまいか

ENA

発行／恵那市青少年育成市民会議 第50号

第21回 恵那市少年の主張大会

6月14日(土曜日)、恵那文化センターで、第21回恵那市少年の主張大会を開催しました。市内8中学校の代表生徒が、ステージ上で熱い思いを發表しました。審査の結果、串原中学校の三宅さくらさんが最優秀賞に選ばれました。最優秀作品全文と、優秀・奨励賞作品の要約を紹介します。(YouTube恵那市公式チャンネルでもご覧いただけます)



最優秀賞

その人らしさが光る世界へ

 恵那市立串原中学校 三年生 三宅 さくら
みやけ
 さくら

「普通って、人それぞれ違うんだよ」

この言葉は、昨年、NICUに携わる医師の講話の中で耳にしたもので、私の考え方を大きく変えてくれました。

私の妹は、ダウン症という障がいを持っていません。妹は今、小学校6年生ですが、学習の進度は2・3年生くらい。中でも算数は、まだ1年生の足し算や引き算を一生懸命練習しているところです。運動会のリレーでは、妹は真っ直ぐ走るのが苦手です。チームが負けてしまうと、「どうしてみんなと同じようにできないの?」と、私はつい責めるような言葉を妹にかけてしまいました。

ある日、走り終わった妹に「もっと一生懸命走って!みんな頑張ってるんだよ」と言うと、妹は真剣な顔でこう言いました。

「私も頑張ってるよ!」

その一言に、私は何も言い返せませんでした。妹は、妹なりに精一杯走っていたのです。私の中にあった「普通」というものが、どれだけ一方的だったかを思い知らされました。

そんなときに出会ったのが、冒頭の言葉です。「普通って、人それぞれ違うんだよ」

この言葉に出会ってから、私は「みんなと同じであること」ではなく、「その人自身にとつての普通」を尊重することの大切さに気づくようになりました。

ある日、友達との会話中に、こんな声が聞こえてきました。

「そよちゃんって、いつも元気があって良いね!」

私はその言葉を聞き、はっとしました。私はいつも妹の「できないこと」ばかりを見ていました。でも周りの人たちは、妹の「できること」、明る

く元気で、人を笑顔にする力に目を向けていたのです。

去年、妹が学校で歌舞伎に挑戦しました。セリフは少しかけ。でも家では毎日何度も練習を重ね、本番に臨みました。緊張のあまり声が出なかった場面もありましたが、最後までやり切った妹の姿に、私は涙が出そうになりました。人の価値を「できる・できない」で判断するのではなく、その人の努力や姿勢をきちんと見つけ、受けとめようとする。そうした姿勢が、相手を本当に理解する第一歩なのだと思います。

以前の私は、妹が他の子と違うことが恥ずかしいかと思つた時期もありました。突然踊り出したり、知らない人に話しかけたり、予想できない行動に戸惑うこともありましたが、でも今は、妹の明るさや素直さ、そして何より、どんなときも前向きに頑張る姿を心から誇りに思っています。

人はみんな違います。勉強が得意な人もいれば、運動が苦手な人もいます。人前で話すのが苦手な人もいれば、それが得意な人もいます。その「違い」を認め合える社会は、きっと誰にとっても生きやすい場所になるはず。自分と違う人を理解することは、勇気がいりとても難しいことです。でも、その一歩を踏み出そうとする意識が、相手へのまなざしを優しくし、自分自身も成長させてくれるのだと思います。

「普通って、人それぞれ違うんだよ」

妹の存在が、私の世界を広げてくれました。だからこそ今、私もまわりの「違い」に優しく手を伸ばせる人になりたいと思います。

「その人らしさが光る世界へ」—私が信じるその未来に向かって、小さくても確かな一歩を、これからも歩いていきます。

優秀賞 (3名)

※発表順



恵那東中学校
3年生 大島 光煌

農業と未来をつなぐ
ために

恵那市では高齢化や後継者不足により農業の担い手が減少し、特産品や自然が失われつつあります。休耕田の活用や農業体験、農地や農機具の貸し出し、経験者による指導を通じて、若い世代や都市部の人々が農業に関わる機会を増やし、農業を発展させ、人を呼び込みましょう。



上矢作中学校
3年生 川路 結

大好きなふるさと、
上矢作

上矢作中学校は来年閉校となります。少子化の影響で避けられない事実ですが、卒業生が地域PR活動を行うなど、上矢作を残していくために奮起する人がいます。私は生徒会長として「楽しかった」「充実していた」と思いつけるような学校にして、上矢作を人々の思い出に残したい。



恵那西中学校
3年生 高橋 朋佳

地域の誇りを胸に

伝統芸能は後継者不足や需要減少といった課題もありますが、子供向け教室や外国人向けの取り組みなど、伝統芸能を残す取り組みが行われています。地域伝統や文化を守っていくことは、人と人の繋がりを強め、地域に誇りを持つことに繋がると考えます。私の大好きな地歌舞伎を守っていきたい。

奨励賞 (5名)

※発表順



恵那北中学校
3年生 平井 友結

動物が幸せに生きる
ために

日本では犬や猫の殺処分が依然として行われていて、2020年度には約1万2千頭が処分されました。ドイツのように殺処分ゼロを目指すには、社会全体で動物愛護に取り組み、里親制度の利用や保護活動への参加が重要です。動物も人間と同じ命であり、一人一人が責任を持って向き合う必要があります。



岩田中学校
3年生 秋山 加奈

和歌(やまとうた)
の魅力

和歌は五音と七音を基本とした歌。和歌は思いや考えを伝える手段、政治的役割、四季や自然への感動を表現する役割を持つ日本の文学です。三十一音に込められた昔の人の思いが今も私たちに伝わるのが魅力であり、和歌を通じて時代を超えたつながりを感じられます。



恵那東中学校
3年生 中谷 隆聖

枷から糧へ

他人の目を気にして自分を出せず、「挑戦」という言葉にも苦手意識がありました。しかし、担任の先生の励ましで様々なことに挑戦し、失敗も経験しました。先生の支えの中で「挑戦」は自分を縛る枷ではなく、成長の糧だと気づきました。今では失敗も受け入れながら、一歩ずつ前に進む大切さを実感しています。



山岡中学校
3年生 宇野 智美

言葉の責任

SNSは便利なコミュニケーションである一方、誹謗中傷やいじめなど深刻なトラブルも生じています。言葉には大きな責任が伴い、たった一言が相手を傷つけることもあります。被害者にも加害者にもならないため、SNS利用時は言葉の重みを考え、温かい言葉を広めていくことが大切です。



明智中学校
3年生 富田 碧音

ボランティア活動を通して得たこと

ボランティア活動に参加し、子どもたちの笑顔や感謝の言葉に触れることで、大きな喜びとやりがいを感じました。イベントを陰で支える人々の努力や、周囲への感謝の大切さも学びました。無報酬ですが、お金には代えられない貴重な経験と財産を得ることができました。



恵那西中学校
3年生 白井 梨華

想いを言葉にする
大切さ

自分の想いを言葉にして伝えること、人の意見を聞くことはとても大切です。過去の経験から意見を伝えられず後悔したこともありましたが、勇気を持って発信することで周囲との関係が深まりました。否定を恐れず、一人ひとりが自分の考えを伝え合うことで、新しい道が生まれると信じています。

寄せられた感想

●どの学生も心のこもった主張をしていただき、大人の私も心を動かされました。このような経験を将来の恵那市、そして自分の人生の糧にしたいと思っています。
(中野方町・30代)

●学生の皆さん、大変素晴らしい発表だったと思います。学生の皆さんはやはり恵那市を大切に、自分の生まれ育った地域を大切にしたいと思う気持ちがとても強い事が受け取れました。
(岩村町・50代)

●恵那市の伝統・文化を守り、農産業を継いで恵那市に農業従事者と呼び込もうという夢を持っている若者がいることに感動。しかし、いざそれを行動に移せるかという決断が簡単なことではないという覚悟も持つて欲しいと思います。
(山岡町・70代)

●体験に基づいたテーマ選びをされており、説得力がありました。恵那ならではの話が多く、少子化や地域産業、伝統文化の大切さを再認識しました。中学生の純粋さ、思春期ならではの悩み、人格形成をする上での気づきが、とても美しい言葉や姿で素直に表現されており、素晴らしい主観大会だったと思います。
(多治見市・50代)

「笑顔が集まる、 子どもたちの居場所」 放課後子ども教室



子どもたちの心身の発達や社会性を育む上で必要性が高まっている「放課後子ども教室」について紹介します。



「放課後子ども教室」ってどんなところ？

地域全体で支える「子どもたちの居場所」です

放課後や週末などに小学校の教室などを活用し、安全・安心な子どもの活動拠点（居場所）を設け、孤立しがちな子どもたちを地域全体で支える「子どもたちの居場所」です。

地域の方たちの協力で文化活動や軽スポーツ、昔遊びなどのさまざまな体験・学習活動を通じて、同年齢・異年齢の児童と地域住民の生き生きとした交流の場にするため、下記の3つをねらいとしています。

3つのねらい

- ① さまざまな活動体験
- ② 異年齢や地域の大人との交流
- ③ 安心安全な活動場所づくり



どんなことをするの？

さまざまな年間プログラムに参加できます

月1、2回程度で、放課後の小学校や、休日のコミュニティセンターなどを利用して、レクリエーション・軽スポーツ・クラフト・調理など、教室ごとにさまざまな年間プログラムを作成して活動を行います。

子どもたちは、同年齢・異年齢で触れ合いながら、地域や保護者のサポーターの方々と一緒に活動します。



どうやって参加するの？

恵那市役所教育委員会社会教育課(事務局)へお問い合わせください

- ▶ 対象者：小学生（対象となる学年は教室ごとに異なりますので、事務局へお問い合わせください）
 - ▶ 参加費：年間1,000円（保険代・材料費一部負担）
 - ▶ 申し込み：活動期間中いつからでも可能です。
- *放課後子ども教室開催一覧は、ウェブサイトを確認してください。

子ども教室▶
ウェブサイト



利用者の声

(お母さん)
教室に
参加するようになって
積極的になった。
みんなの前で発表する
姿を見て成長を感じた。

好きな活動は
しめ縄づくりです！
みんなでしたダンスが
一番の思い出です☆

雑巾縫いとか
ポッチャレとか
好きな活動がたくさん！
一番の思い出は
ポッチャです☆



サポーターボランティア・校区コーディネーター をしてみませんか？

子ども教室では、サポーターボランティアを募集しています。活動内容は、子どもたちの受付・準備・片付け・子どもと一緒に遊ぶことなどです。特別な資格は必要ありません。

校区コーディネーターや安全管理員も随時募集しています。

興味のある方は下記まで問い合わせください。

【社会教育課】

〒509-7292 恵那市長島町正家一丁目1番地1
西庁舎4階

電話番号：0573-26-6853

町民会議の活動

串原



5月11日(日)に「苗を植えよう」を開催し、串原小中学生親子、串原こども園園児など合計68名が参加。

今年は除草作業を楽にしようと畑にマルチシートを掛け、350本のさつまいもの苗を植えました。

5アールの田んぼには、泥んこになりながら、もち米の苗を植えました。収穫したもち米は正月の「どんど焼き」で振る舞うおしること、焼き餅にする予定。秋の「収穫しよう」事業でたくさん収穫できるのを楽しみにしています。

～串原推進員の感想～

現在では土に触れたり、手で田植えしたりする機会が少ない中、子どもと大人の共同作業でやり遂げました。秋の収穫が楽しみです。



市子連からの お知らせ

中学生の皆さん！ 市子連の活動に参加してみませんか！

恵那市子ども会指導者連絡協議会（恵那市子連）では、青少年の健全育成を目的に、親子サマーキャンプやドッジビー大会、かるた取り大会などの活動を行っています。一緒に活動をお手伝いしてくれる中学生ボランティアを募集しています。まずは気軽に参加してみませんか。

○今年度の活動（予定）

- | | | |
|-----------|-----------|--------------------|
| 7月27日(日) | 親子サマーキャンプ | 場所：望郷の森キャンプ場(中野方町) |
| 11月30日(日) | ドッジビー大会 | 場所：まきがね公園体育館 |
| 2月1日(日) | かるた取り大会 | 場所：大井小学校体育館 |

○お問い合わせ 恵那市子ども会指導者連絡協議会事務局（社会教育課） TEL 0573-26-6853



市内で小中学生が気軽に立ち寄れる「居場所」の一部を紹介します！

大井児童センター 中野児童センター

学習スペース有

職員が見守りや遊びの指導を行っており、安心して遊ぶことができます。卓球台の設置など乳幼児から高校生まで利用できます。



恵那未来キャンパス

学習スペース有

「地域課題」への取り組みを通じて若い世代と地域をつなぎ、やりがいやスキル・経験が得られる場所です。



恵那市中央図書館 市内の図書室

学習スペース有

子どもの本のコーナー、おはなしの部屋、おはなしテラス、授乳室など施設が充実した図書館です。



各地域の コミュニティセンター

学習スペース有

生涯学習を進めていくためのさまざまな活動の場所、地域住民によるまちづくり活動の場所です。



各施設の場所や利用時間などの詳細は二次元バーコードを読み込んで確認できます

お問い合わせ

恵那市青少年育成市民会議 事務局 恵那市教育委員会事務局 社会教育課 TEL 0573-26-6853